

**令和2年度第1回
奈良市市民参画及び協働によるまちづくり審議会会議録**

開催日時	令和2年9月28日（月）午後1時30分から3時30分まで		
開催場所	はぐくみセンター（奈良市保健所・教育総合センター）1階 ボランティアインフォメーションセンター1-1・1-2会議室		
出席者	委員	石原均委員、磯野奈緒委員、伊藤俊子委員、梅田直美委員、 梅林聡介委員、辻中佳奈子委員、中川幾郎委員、矢本亜矢委員 【計8人出席】	
	事務局	中川市民部次長、圓山地域づくり推進課長、 高岡地域づくり推進課課長補佐、岡田地域づくり推進課課長補佐 （事務局）地域づくり推進課協働推進係	
開催形態	公開（傍聴人1人）	担当課	市民部 地域づくり推進課
議題 又は 案件	1 開会 2 案件 （1）第2次市民参画及び協働によるまちづくり推進計画実施計画に係る 令和元年度事業評価及び令和2年度実施計画について （2）奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画の見直しについて （3）その他 3 閉会		
決定又は取 り纏め事項	1 第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画案について、素 案を検討し、整理する。 2 次回の審議会は、コロナウィルス感染予防の観点から、メールやオンライ ン会議等を用いての審議も検討しており、状況を鑑み改めて連絡する。		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
1 開会 地域自治協議会の取組状況について事務局より説明。			
2 案件 （1）第2次市民参画及び協働によるまちづくり推進計画実施計画に係る令和元年度事業評価及 び令和2年度実施計画について ○事務局より、資料4～11に基づき説明を行った。 ・資料4は、「令和元年度第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画事業一覧 表」。令和元年度（協働事業）評価一覧表では、行政と協働相手それぞれの評価点及び総合 評価を記載。協働事業の合計数は82件。82件の評価の内訳は、A評価が50件、B評 価が30件、C評価が1件、新たな指定がなく審議会の開催がなかったため評価不能であ った事業が1件であった。 ・資料5は、令和元年度の協働事業の評価シートで、資料6は、令和元年度の市民参画事業			

の評価シートとなっており、それぞれ各課からの回答をまとめている。

- ・資料7は、令和2年度第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画実施計画事業一覧表で、令和2年度協働事業一覧の件数は全85件（内1件が令和2年度以降対象外、3件が令和2年度中止、新規事業の追加が3件となっている）。

令和2年度市民参画の事業の一覧は全49件（内2件が令和2年度以降除外、1件が令和2年度は対象外、平成7年度以降活動休止となっている事業が1件ある）。

令和2年度の協働・市民参画事業数の合計は、それぞれ令和2年度以降除外の事業を除いた件数（協働事業84件、市民参画事業47件）を合わせて131件となっている。

- ・資料8は、令和2年度の協働事業の実施計画シート、資料9が令和2年度の市民参画事業の実施計画シートで、それぞれ令和2年度の実施計画について記載。
- ・資料10は、後援名義の一覧で、令和元年度の後援名義の合計は455件。
- ・資料11は、令和元年度の補助・助成一覧表で、合計は76件。
- ・今回は時間の関係もあるため、後日事業の評価ごとに意見をいただくシートを送付する旨伝える。

➤主な意見は以下の通り

- ・資料5の令和元年度事業評価シート（協働事業）のNo.1にある地域づくりコーディネーターについて聞きたい。存続危機の自治会から相談があり、地域づくりコーディネーターに繋げるのであれば、繋ぎたい。どういったサポートをして貰えるのか。

資料5のNo.2ボランティアセンターについて。他の課を見ていると人材不足やボランティア不足を課題として挙げているが、ボランティアセンターと連携して、事業同士の横の連携があったら良いのではないか。（磯野委員）

→地域づくりコーディネーターについては、地域活動を行う上で困ったことがあったら相談して貰えたら、市の各課とのつなぎ役、行政の窓口となる。（山中係長）

→ボランティアセンターの横のつながりについては、ボランティアセンターが単独で事業をすることもあるが、ボランティアインフォメーションセンターとボランティアセンターが一緒になって事業を進めている部分もある。今年度から始める事業として、個人ボランティア登録制度を統一したことも奈良市としてやっていこうと思っている。（高岡補佐）

→コロナ禍で会議も行事も中止になり、住民同士の関係だけでなく自治連合会など組織の連帯感も希薄になっており、何とかしないと崩壊してしまう。コロナだから、というのはやめて予防策をとっていかなければならない。自治会も危機的状況にあるが、そういう状況の中、次は何をしよう、何をしなければならないかを考えていかないといけない時期にきている。（梅林委員）

- ・資料5のNo.44『自主防災防犯組織』の協働相手の評価が空欄になっているのは、コロナの関係で集まれなかったからなのか。No.45『独り暮らし高齢者世帯防火訪問』について、民生児童委員幹事会との調整を行ったうえで今年度は対面訪問ではなくチラシと啓発品のポスティングのみで実施することになった。（伊藤委員）

→No.44は協働事業として、公式文書として挙がっているので、コロナの時期の暫定的な

措置なのか、方針は一定の責任を持った部局が出しているのかが問われる。コロナが収束するまでは、この方針を維持するのかを担当課に確認する必要がある。(中川会長)

- ・資料8の令和2年度実施計画(協働事業)はいつ作成したのか。地域づくりコーディネーターについて、奈良市に何名ほどいて、一人がどのくらいの地区を担当しているのか。(矢本委員)

→資料8の令和2年度実施計画(協働事業)は今年の7月頃に各課に照会をかけて作成した。(土井係長)

→地域づくりコーディネーターは奈良市に10名配置している。自治連合会の地区でいうと50地区あるので、平均でいうと一人5地区担当という形。チーム制をとり、2名で10地区程度担当している地域もある。(山中係長)

- ・資料5の協働事業の事業評価について、以前は協働相手の評価がとれないといことがあったが、今は不特定多数の事業や子ども相手の事業以外は、ほぼほぼ評価がとれていて良くできている。一覧表を見ると、C評価が1件あり、C評価が悪いとは思わないが、No.68の『奈良市ならまち格子の家』についてのコメントが全く書かれていない。相手の意見よりも、行政の意見が『特になし』というのは気になる。この出来上がった資料は課ごとに配布しているのか。奈良町にぎわい課が、全体的にコメントが少ないため、資料を配布して、他の課の分量を見てもらっても良いのではないか。(辻中副会長)

→課ごとに配布はしていないが、資料としては公開しており、課では公開したものを共有して貰っている。(土井係長)

- ・資料11の令和元年度(補助・助成)一覧表については、今回初めての資料である。住民側に主たる責任があるものに対して、行政が応援する場合は後援名義を差し上げる、もしくは補助金・助成金を差し上げることがある。行政側に責任があり、住民がここに関わって応援する場合は、委託料となる。今現在、緊急の課題とはなっていないが、将来的な課題として、評価・審査の透明化、事後報告の明確化が問われてくるのではないかと考える。令和元年度の事業評価～令和2年度の計画に至るまで、これだけの行政内の事業を洗い直したことで、事業ごとの個別カードが完成したことは進歩。(中川会長)

(2) 奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画の見直しについて

○事務局より、『奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画の見直し』について、これまでの取組状況について説明。

なお、本来は今年度の審議会を経て、令和3年度からの施行予定であったが、新型コロナウイルス感染予防の観点から、手続き及び審議時間の確保が困難であること、始期を合わせる予定であった、第5次総合計画も策定の1年延期を検討している状況であることを踏まえ、令和4年度からの施行で検討していることを説明し、了承を得る。

➤主な意見は以下の通り

・意識づくりが大切。積極的な情報提供を引き続き続けてほしい。(石原委員)

・資料12『奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画の見直し概要(案)』の課題のところ、市民公益活動団体の構成員の高齢化が進むとともに、新たな人材の確保が必要とあるが、資料13『第3次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画(案)』に新たな人材の部分が触れられていない。新たな人材＝若者世代、子育て世代など若者の参画を意識的に促すようなことを計画に盛り込まないと、また、数年後に構成員が高齢化の課題を繰り返すのではないか。

資料13のP10にボランティア・NPOの活性化について、これまでの実績を載せており、ボランティアセンターの登録ボランティアグループの活動紹介誌の発行とあるが、実際に何団体あるのかというデータや、ボランティアセンター、ボランティアインフォメーションセンターの『行きます』『来てくださいカード』で、どの位のマッチング実績があったのか、P12のボランティアインフォメーションセンターにおいて様々な講座をしているが、その実施回数や参加者数、満足度のデータを掲載してみてもどうか。(磯野委員)

→資料13の市民公益団体について、地域コミュニティの部分を追記した形で記載する。
若い世代についても、もう少し具体的に記載して作成するよう進めていく。(土井係長)

・政策、業績評価として進んでいる、実行性のあるものが作られている。資料13のP10に、「実施計画」の評価を行政だけでなく、協働相手からも意見と評価をして貰い、それを意見交換や情報共有の機会の増加に生かしたとあるが、この業績評価をきっかけにした、意見交換や情報共有の機会は具体的にどういったものを行っていたか教えてほしい。

事業評価を見ていて、行政側の評価として協働相手の自立化の評価が低いと感じた。協働という概念と自立化というところの中で、どういうことをもって自立と考え行政の評価をしているのか。例えば、経済的な部分なのか、自分たちの目標に向かって裁量的に予算を実効的に使えるということなのか、色々な意味の自立があると思うが、行政の中で、自立の評価の共有がなされているか聞きたい。(梅田委員)

→実施計画の評価を行政が一方的に行っていた部分があったので、審議会を通して協働相手から評価を得る機会や、情報共有の機会を1年に1回設けたことを指している。

→自立化については、事業によって内容が変わってくるので、我々も曖昧な認識がある。いただいた意見をもとに見直し、各課がわかりやすい形を示していきたい。(土井係長)

・市民にどう周知していくかが大事である。(梅林委員)

・資料13のP10のボランティアインフォメーションセンターとボランティアセンターの違いをもっと分かりやすく表記すべき。

P9のSNS活用件数は、担当課の数なのか。件数の内容がわからない。(矢本委員)

→SNSの件数は、活用している課の件数を記載している。表記をわかりやすく変更する。
(高岡補佐)

・資料12の背景の部分については、資料13のP6、P7に記載されていると思うが、資料12の一部分しか記載されておらず、わかりにくい。

資料13のP6に(1)人口減少と市民ニーズの多様化【現状】とあるが、人口減少のこ
としか書かれておらず、市民ニーズの多様化については触れていない。P7の(2)住民
自治の拡充の【課題】のところで、「地域住民のニーズが多様化～」として出てくるが、【課
題】は(3)として、資料12を反映した形にして、今後の課題を記載する方が良いので
はないか。資料12の内容がほとんど記載されておらず、活かされていないと思う。

P13に、地域活動推進について書かれてあるが、地域自治協議会の話はこの程度の記載
で良いのか。条例に組み込んだというのは入れなくて良いのか。(辻中副会長)

・資料13のP13にある③地域における新たな協力・連携の仕組みの構築は、もっと丁
寧に細やかに書くべき。先ほど質問にもあった地域づくりコーディネーターの配置につい
ても、もう少ししっかり書く方が良い。

梅田委員から指摘があった、自立について。自立という項目が評価指標に入っている理由
は、資料13のP15の協働の原則④にあるからである。ここの表記を『依存や癒着の関
係に陥ることのないよう』で止めているが、パラグラフをもっと詳しく試みてはどうか。

(中川会長)

→書き方については、整理していきたい。(圓山課長)

→指摘いただいた形式的な部分については、修正を行う。(土井係長)

(3) その他

・次回審議会についてはコロナウィルス感染防止の観点から、メールやオンライン会議も考
えている。(事務局)

→改めて詳細については連絡する旨ご案内。

・議事録の署名は、中川会長と辻中副会長にお願いしたい。(事務局)

資料

- 資料1. 奈良市市民参画及び協働によるまちづくり審議会委員名簿
- 資料2. 奈良市市民参画及び協働によるまちづくり審議会規則
- 資料3. 奈良市市民参画及び協働によるまちづくり審議会運営要領
- 資料4. 令和元年度第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画
事業一覧表
- 資料5. 令和元年度事業評価シート(協働事業)
- 資料6. 令和元年度事業評価シート(市民参画事業)
- 資料7. 令和2年度第2次市民参画及び協働によるまちづくり推進計画実施計
画事業一覧表
- 資料8. 令和2年度実施計画シート(協働事業)
- 資料9. 令和2年度実施計画シート(市民参画事業)
- 資料10. 令和元年度 後援名義一覧表
- 資料11. 令和元年度 補助・助成一覧表
- 資料12. 奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画の見直し

	<p>概要（案）</p> <p>資料 1 3. 第 3 次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画（案）</p> <p>資料 1 4. 第 2 次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画（現行）</p>
--	---